

様式第4の二 (第4条、第5条関係)

屋内タンク貯蔵所構造設備明細書

事業の概要		(1)					
タンクの構造専用 (2)	壁	延焼のおそれのある外壁				床	
		その他の壁				出入口	(しきい高さcm)
	屋	根				その他	
建築物の一部にタンク専用室を設ける場合の建築物の構造 (3)	階数		設置階		建築面積	㎡	
	建築物の構造概要						
タンクの構造、設備 (4)	形状				常圧・加 (kPa)		
	寸法				容量		
	材質、板厚						
	通気管	種別		数	内径又は作動圧		
					mm kPa		
	安全装置	種別		数	作動圧		
			kPa				
液量表示装置				引火防止装置	有・無		
注入口の位置	(5)			注入口付近の接地電極	(6) 有・無		
ポンプ設備の概要	(7)						
採光、照明設備	(8)			換気、排出の設備	(9)		
配管	(10)						
消火設備	(11)			警報設備	(12)		
工事請負者住所氏名	(13)						
	電話						

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格 A4 とすること。

2 建築物の一部にタンク専用室を設ける場合の建築物の構造の欄は、該当する場合のみ記入すること。

屋内タンク貯蔵所構造設備明細書記入要領

項 目	記 入 内 容
(1) 業の概要	事業の概要は、貯蔵所が設置されている事業所の事業内容、貯蔵目的等を記入します。
(2) タンク専用室の構造	タンク専用室の構造は、貯蔵所（建築物の一部に貯蔵所を設ける場合は、貯蔵所に係る部分）の構造等を記入します。
(3) 建築物の一部にタンク専用室を設ける場合の建築物の構造	建築物の一部に設ける場合の建築物の構造は、申請する貯蔵所が設置される建築物全体の構造等を記入します。 ※建築物全体が屋内タンク貯蔵所になる場合は、記入しません。
(4) タンクの構造、設備	<p>①形状は、縦置円筒型、横置円筒型、角型、楕円型等を記入します。</p> <p>②常圧・加圧は、タンクの貯蔵方法を○で囲み、加圧の場合は圧力を記入します。</p> <p>③寸法は、次の項目を記入します。</p> <p>(1) 縦置円筒型は、内径及び側板の底部からトップアングルまでの高さ</p> <p>(2) 横置円筒型は、内径、胴長、鏡出及び全長</p> <p>(3) 角型は、縦、横、高さ</p> <p>(4) 楕円形は、長さ、幅、高さ、最大幅等特徴的な部分の長さ</p> <p>⑦ 容量は空間容積を除いた実容量を記入します。なお、製造所又は一般取扱所に設ける20号タンクで、危政令第5条第3項に規定する一定量を超えることがないタンクは、その一定量を記入します。</p> <p>⑧ 材質、板厚は、タンクそれぞれの部分の材質及び板厚を記入します。</p> <p>⑨ 通気管は、タンクに設置される通気管の種別、設置数、内径を記入します。</p> <p>⑩ 安全装置は、圧力タンクの場合に限り、装置の種別、設置数及び作動圧を記入します。 (例) フレームレスター付大気弁1基 ○○KPa</p> <p>⑪ 液量表示装置は、タンクに設置された液面計の型式等を記入します。</p> <p>⑫ 引火防止装置は、有・無のいずれかを○で囲むよう記入します。</p>
(5) 注油口の位置	注入口の設置位置を具体的に記入します。
(6) 注入口付近の接地電極	有・無のいずれかを○で囲むように記入します。
(7) ポンプ設備の概要	ポンプ設備は、タンク受け払いを行っているポンプの種類、最大吐出圧力、原動機の種類、設置数及び防爆構造の種別や記号を記入します。
(8) 採光、照明設備	採光及び照明の種類、設置個数、防爆構造の種別（記号）を記入します。
(9) 換気、排出の設備	換気、排出の別（設備種類）、設置個数等を記入します。
(10) 配管	材質、口径、外面保護等を記入します。
(11) 消火設備	危政令別表第5に規定する区分、設備名、設置数等を記入します。 (例) 第3種二酸化炭素消火設備（全域）、第5種消火器設備2本
(12) 警報設備	危険物規則第37条に規定する警報設備について記入します。 (例) 加入電話、自動火災報知設備

(13) 工事請負者住所氏名	工事請負者の住所，氏名（法人は主たる事業所の所在地，法人名，工事責任者名）及び連絡先の電話番号を記入します。
----------------	--

※製造所又は一般取扱所の20号タンクの場合は，(2)から(17)までについて記入してください。

該当がない項目は，斜線又は「なし」等を記入し，空欄が無いようにしてください。